

2022 年度中間期決算説明会 主な質疑応答

2022 年 11 月 24 日（木）に開催した 2022 年度中間期決算説明会におけるご質問および当社の回答は以下の通りです。

Q. 下期の外債の運用方針についてどのように考えているのか。

A. 調達コスト上昇を鑑み、2022 年度上期においては、低金利の銘柄を中心に入替を行っている。インフレの収束時期を予測することは難しいが、一方向の金利上昇は考えにくく、将来的な景気減速とこれに伴う金利低下を予想に組み入れ運用方針を定めている。今後の金利水準に関する複数の見通しを前提に、保有継続の場合、売却の場合、それぞれが収支に与える影響を個別銘柄ごとに精査し、経済合理性を踏まえた上で、判断を行っている。また、マーケットの見通しの変化に応じて、運用方針については、機動的に見直しを行っていく。

Q. 総還元性向 50%と公表しているが、自己株取得などの還元方針についてどのように考えているか。

A. 2022 年度の通期業績予想は変更しておらず、普通株式の配当予想も 35 円の据え置きとさせていただいたが、利益水準等を鑑みて、昨年度実施した自己株式の取得を含め、株主還元の実現に向けた取り組みを検討していく方針である。但し、現時点で決定していることはないことをご理解いただきたい。

Q. ほくほくフィナンシャルグループの強みと課題はなにか。

A. 広域のマーケットに、2 行の長い歴史に裏打ちされた確固たる営業基盤を確立していることが最大の強みであると考えている。広域営業基盤を活用し、北陸地区・北海道地区のみならず、3 大都市圏も含め、お取引先のビジネス、情報を結び付けることができることが強みであり、お取引先からも期待されていると考えている。また、M&A・事業承継や資産運用などお客さまが抱える課題について、真っ先にご相談いただける関係性を築けていることも強みである。

課題については、広域・遠隔地間のグループであるがゆえにコストシナジーに制約があることがネックである。そういった課題に対しては、2 行間の社内業務の連携やお客さまとの接点確保などにおいてデジタル技術を活用した合理化・高度化を図るなど、DX 化を進めていくこと、また、グループ各社が営業・運営面で連携を強化することでシナジー効果を高め、トップラインを引き上げていくことでカバーし、企業価値を高めていきたい。

Q. 今後、利益を伸ばすためにどの分野に注目しているか。

A. 本業である貸出金など、資金利益の確保にこれからも重点的に取り組んでいく。さらに、M&A や事業承継など既存のコンサル分野の高度化に加え、DX・環境などの新たなコンサル分野についても、専門人材を増やし、強化していくことで、利益を伸ばしていく。

以上